



加藤 元の



と暮らして
みませんか

31

欧米では長い間、猫の生理学や栄養学が研究され、一九六〇年代には猫の完全栄養食がつくられ、素晴らしい実績を上げています。

犬と同様に猫の栄養学に基づいてつくられた良質のキャットフードが輸入され、また日本でも製造されるようになっていたので、猫たちにも正しい栄養が与えられるようになっていきます。

しかし、日本ではまだ人間と同じ食べ物や、魚やささみなど偏った食餌を与えていることが多いのも事実です。そのため、栄養のバランスを崩し、人間が猫を病気にしたりやすくなっています。

猫は犬よりもはるかに動物性の

猫の食事

ドライフードで栄養バランス

タンパク質や脂肪、必須アミノ酸などの要求量が高い動物です。これらの栄養をバランスよく配合し、歯にも良く、あれこれ気を使わずに誰でも安心して与え続けられるのが、サイエンスダイエットを代表とするドライのキャットフードなのです。

毎日このようなキャットフードを適量与えていけば、栄養については安心なばかりか、いつも同じものを食べさせているので、便を見れば猫の胃腸の状態がひと目でわかるという利点もあります。

しかし、毎日同じものばかりではかわいそうと、他の食べ物を与えたりしてはいけません。栄養のバランスが崩れるばかりか、肥満になりやすく寿命を縮めることにもなりかねません。

食事の回数と量はどうしたらよいかと尋ねる人がたくさんいます。

離乳が終わり、母猫から離れるころからは、幼猫用のドライのキャットフードを好きなだけ食べさせるのが、その猫のカロリーの規準を満たすよい方法と考えてください。

生後一 二カ月は一日四回、生後六カ月までは一日三回、生後七カ月以降は一日二回が目安で、一日量を分割して、食器に入れ、あとは自由に食べさせてやります。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長)

《産経新聞2004年11月7日掲載》